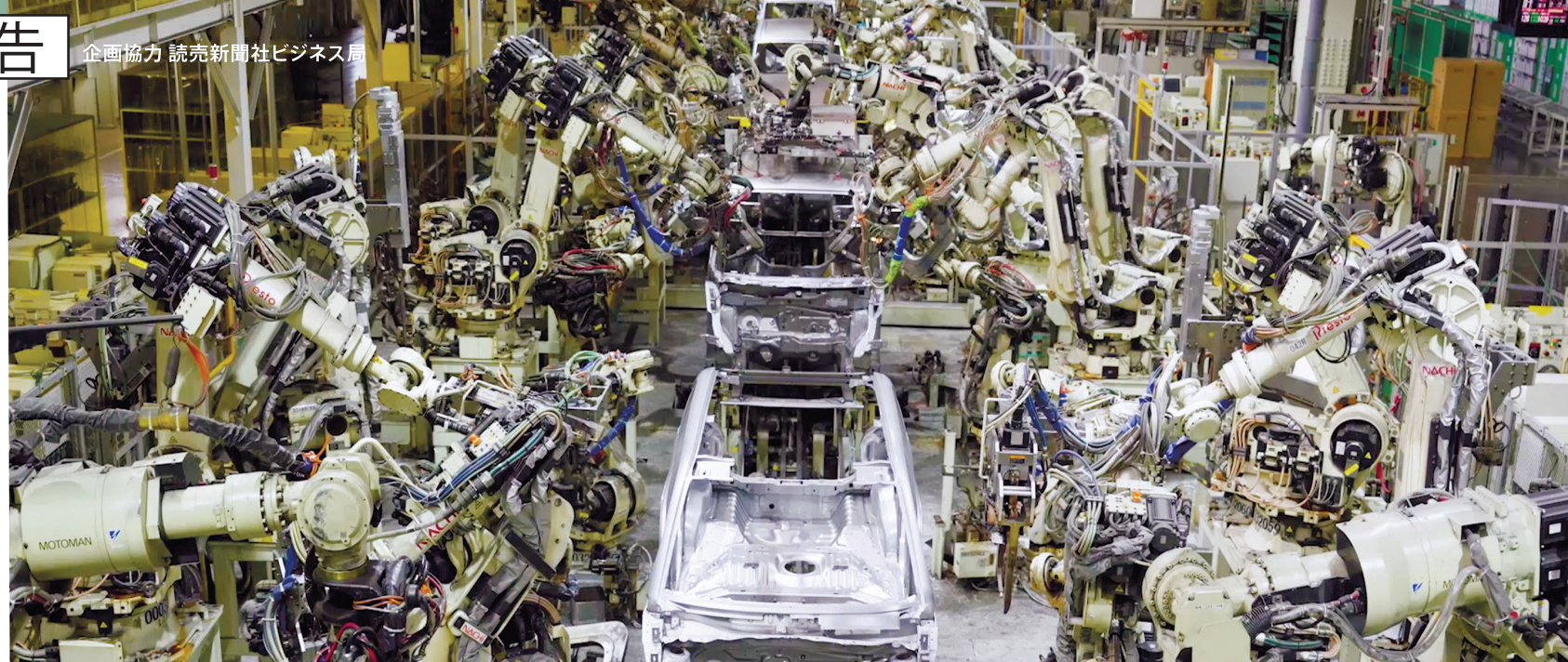




今回訪ねた生産工場

ダイハツ工業 京都(大山崎)工場

京都府乙訓郡大山崎町下植野

ダイハツの乗用車を生産する工場で、トヨタ車の製造も行っているよ。1973年の創業以来、近年は「SSC(シンプル・スリム・コンパクト)」という考え方を取り入れながら、資源やエネルギーをムダにしないクルマづくりを進めているんだ。

この工場では、できるだけエネルギーを節約できるよう、機械や作業の順番を見直したり、照明を省エネにつながる明かりに切り替えたりしているんだ。また、工場の屋根にはたくさんの太陽光パネルが並んでいて、工場を使う電気の一部をつくっているよ。太陽の力で電気をつくれば、CO₂を減らすことにもつながるんだ。こうした取り組みを積み重ねることで、クルマをつくる工場そのものも、地球にやさしい場所になるように努力しているんだ。



▲ 広大な工場の屋根に設置されたソーラーパネル

Point

3

工場自体も地球にやさしい

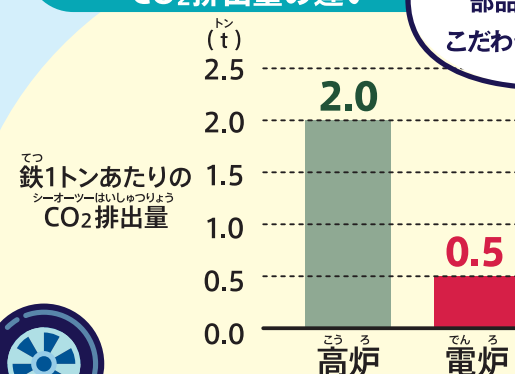
Point

2

地球にやさしい鉄を選ぶ

クルマにはたくさんの鉄が使われているよ。そこでダイハツでは、できるだけ地球にやさしい「電炉鉄」という特別な鉄の利用を進めているんだ。ふつうの鉄をつくる時には、原料である鉄鉱石を溶かすために、石炭を燃やして高い温度にする必要がある。でも電炉鉄は、いらなくなった鉄を電気ので溶かしてつくるので、CO₂の排出がとでもCO₂の排出量が約4分の1に減らせるんだ！こうした材料選びの工夫によって、環境への負担を小さくしているんだ。

鉄製造プロセスによるCO₂排出量の違い



取引先から購入する部品の材料にもこだわっているんだ！

企業の取り組み

牛のフンからエネルギー!?

滋賀県にあるダイハツの工場では、近くの牧場から集めた牛のフンを使って「バイオガス」というエネルギーをつくる研究をしているよ。牛のフンを発酵させると出てくる「メタンガス」は火をつけると燃えるので、工場の機械を動かすエネルギーとして使えるんだ。ふつうはそのまま空気中に出てしまうメタンを燃料として生かせるから、CO₂を減らすことにつながるよ。



動画で工場見学!

もっと詳しく知りたい人は、下の二次元コードから動画をチェック！実際の作業のようすを映像で見よう！

＼ここからアクセス！／



自動車リサイクル博
工場
見学
生産編

詳しくはこちらから

クルマのリサイクル

検索



お家で工場見学!

クルマのリサイクルとSDGs

vol.6 生産編

資源をムダにしない
クルマづくりの工夫を
一緒に見てみよう!

つくる時からリサイクルしやすく!



自動車リサイクル博士

クルマは人や荷物を運ぶだけでなく、緊急の時に人を助けたり、私たちのくらしを支えてくれる大切な乗り物だよ。役目を終えた後も、そのままゴミになるわけではなく、そのほとんどがリサイクルされて、新しい資源として生まれ変わるんだ。このシリーズ(全7回)では、そんなクルマのリサイクルの旅を博士と一緒に見ていくよ。

6回目の今回訪れたのは「生産工場」。クルマが最初につくられるこの場所では、鉄やアルミ、プラスチックなどの材料をできるだけムダにしないことはもちろん、パーツを外しやすくするなど、役目を終えた後にリサイクルしやすくするための工夫もたくさん取り入れられているんだ。

Point

1

リサイクルしやすい部品づくり

この工場では、使い終わった時に部品を分けて回収しやすくするためのさまざまな工夫をしながら、クルマを生産しているよ。

たとえば、バンパー(クルマの前や後ろに付いているカバー)や、ドアの内側のパーツなどには「この部品はポリプロピレン」という素材ですといった材質の表示を付けることで、解体する時に同じ種類のプラスチックを集めやすくしているんだ。さらに、ネジの数をできるだけ減らすなど、部品を取り外しやすい構造にする工夫も行っているよ。



▲ ライン上で手早くバンパーを取り付けているよ

材質表示は
リサイクルする時に役立つ
目印なんだ



クルマの
リサイクルについて
勉強してみよう!

特別審査員
小島 よしおさん

第9回



クルマのリサイクル

作品コンクール

標語・ポスター大募集!!

締め切り
2026年1月31日(土) 必着

詳しくはWEBを
チェック!

